



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オヘ期日	オヘスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
8/29 (月)	+ 300	▲ 5,300	▲ 5,000	国庫短期証券 発行・償還 (3M)	国債補完供給 CP等買入 + 9,000 ▲ 300	社債買入 + 800	
8/30 (火)	トン	▲ 1,000	▲ 1,000				米：NY連銀総裁、講演 欧：EU外相会合 (31日まで) 米：消費者信頼感指数 (8月)
8/31 (水)	▲ 500	▲ 3,000	▲ 3,500			CP等買入 新型コロナ企業金融支援特別 + 4,000 ▲ 205,000	日：鉱工業生産 (7月) 米：クリーブランド連銀総裁、講演 米：アトランタ連銀総裁、講演 欧：ユーロ圏、CPI (8月)
9/1 (木)	▲ 1,000	▲ 22,000	▲ 23,000	国債発行・償還 (2年)			米：アトランタ連銀総裁、講演 米：自動車販売 (8月) 米：ISM製造業景況指数 (8月)
9/2 (金)	トン	▲ 48,000	▲ 48,000	消費税・法人税・ 保険揚げ 国債発行 (10年)			米：雇用統計 (8月) 米：製造業受注 (7月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初535兆3,300億円から始まり、24日まで横ばい圏で推移した。25日の国庫短期証券 (6M) の償還や、国債買入オヘ等により大きく増加し、539兆1,700億円で越えた。

無担保コールON物は前週対比で大手行を中心に調達意欲が減退し、日々低下基調を辿った。同加重平均金利は週初△0.014%から始まり、週末8月26日は△0.039%まで低下した。

ターム物は1W~1Mを中心に△0.050%~△0.020%のレンジで出合が散見された。

来週の主な予定は、海外では30日にNY連銀総裁講演、9月2日に雇用統計 (8月) などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.060 ~ 0.001
1M	△0.060 ~ 0.020
2M	△0.010 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

<レポ>

足許GC取引は週初△0.085%近辺で始まり、国債買入オヘがオファーされた24日の取引では△0.100%に低下。短国3m入札日となる26日の取引では△0.09%近辺に上昇した。SC取引は2年428~439回債、5年148~153回債、10年350~367回債、20年171~181回債、30年65~75回債、40年9~15回債などに引合いが多く見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.000 ~ 0.005

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆975億円で、週間償還額 (約9,100億円) を上回った。発行市場は、夏季休暇明けの発行再開に伴い、石油や電力等を中心に大型の発行が実施された。原材料価格の高止まりや円安等で企業のコスト負担が増加するなか、当面の資金調達手段としてCPの利用が活発化している。市場残高は先週末時点で28兆6,134億円であったが、8月23日に過去最高残高 (28兆7,185億円) を更新して以降も連日で更新しており、8月25日時点で28兆8,864億円となった。発行レートは0%から小幅なプラス圏での出合いが中心であった。

来週の週間償還額は、8月末の約1兆6,600億円を含む、約1兆7,600億円となっている。発行市場は、企業による底堅い資金ニーズに加え、月末償還分のロール発行が見込まれるため、活況な取引を予想する。発行レートは横ばい圏内での出合いを予想する。

<TDB>

8月26日の3M1104回債の入札は、最高落札利回り△0.1062% (前回債△0.1162%)、平均落札利回り△0.1134% (前回債△0.1295%) となった。来週は9月2日に3Mの入札がある。